

志高錬成

～志を高く持ち、
よりよい成果を得るために、
粘り強く自分を鍛える～



令和8年6月19日 4号

佐久市立浅科中学校 文責：中島

『探究総合』が本格的に始まっています…

本校で大切にしている活動である「探究総合」が各学年で本格的になっています。1年生は先日の職博体験学習の学びを受け、地域を知ることがテーマに学習が始まっています。2・3年生は、地域の方との交流や今までの探究活動の学びからさらに追求したいテーマを決め、そのテーマの学習は少しずつ始まっています。テーマに沿って上手に活動を進められる生徒もいると思いますが、大事なことは自分が目指した目標に向かって繰り返し挑戦し、「できた」「分かった」と感じられることだと思います。そんな生徒に育てて欲しいと願いながら探究総合の時間を進めて参ります。また、今月25日(木)には自らの学びをアウトプットする機会を設ける予定です。お子さんのアウトプットする姿を多くの保護者の方に参観して頂ければ幸いです。

【探究総合の様子】



前回の学校便りの続きです…

前回の学校便りに「幸せとは何か？」という話を載せました。その中で「感謝することの大切さ」について書かせていただきました。「感謝する」。分かっているつもりになっているけれど、実際に「(いろいろなことに)感謝していますか？」聞かれると、正直ねえ…と思った保護者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか？。そんなことを言っている私(教頭)もいろいろなことに感謝できているかといえば、かなり不安です(汗)。そんな時、ある方のお話を思い出しました。突然ですが、みなさんは鎌田實(かまた・みのる)さんをご存じでしょうか？。諏訪中央病院名誉院長であり、地域包括ケア研究所所長。チェルノブイリ原発事故後の1991年より、ベラルーシの放射能汚染地帯へ100回を超える医師団を派遣し、約14億円の医薬品を支援したり、2004年からはイラクの4つの小児病院へ4億円を超える医療支援を実施し、難民キャンプでの診察を続けたりした方です。また、東北をはじめ全国各地の被災地に足を運び、多方面で活動中の先生でもあります。個人的には「雪とパイナップル」という著書がとても印象に残っています。その鎌田さんがある著書の中で下に載せたようなお話をされていました。タイトルは「生きる原動機は『誰かのために』」です…

タイトル:生きる原動力は「誰かのために」

僕が看取った患者さんに、スキルス胃がんに罹った女性の方がいました。余命3か月と診断され、彼女は諏訪中央病院の緩和ケア病棟にやってきました。ある日、病室のバルコニーでお茶を飲みながら話していると、彼女がこう言ったんです。

「先生、助からないのはもう分かっています。だけど、少しでも長生きをさせてください」

彼女はそのとき42歳ですからね。そりゃそうだろうと思いつつ返事に困って、黙ってお茶を飲んでた。すると彼女が、「子供がいる。子供の卒業式まで生きたい。卒業式を母親として見てあげたい」と言うんです。9月のことでした。彼女はあと3か月、12月くらいまでしか生きられない。でも私は春まで生きて子供の卒業式を見てあげたい、と。子供のためにという思いが何かを変えたんだと思います。奇跡は起きました。春まで生きて、卒業式に出席できた。こうしたことは科学的にも立証されていて、例えば希望を持って生きている人のほうが、がんと闘ってくれるナチュラルキラー細胞が活性化するという研究も発表されています。おそらく彼女の場合も、希望が体の中にある見えない3つのシステム、内分泌、自律神経、免疫を活性化させたのではないかと思います。

さらに不思議なことが起きました。彼女には2人のお子さんがいます。上の子が高校3年で、下の子が高校2年。せめて上の子の卒業式までは生かしてあげたいと僕たちは思っていました。でも彼女は、余命3か月と言われてから、1年8か月も生きて、2人のお子さんの卒業式を見てあげることができたんです。そして、1か月ほどして亡くなりました。

彼女が亡くなった後、娘さんが僕のところへやってきて、びっくりするような話をしてくれました。

僕たち医師は、子供のために生きたいと言っている彼女の気持ちを大事にしようと思い、彼女の体調が少しよくなると外出許可を出していました。

「母は家に帰ってくるたびに、私たちにお弁当を作ってくれました」と娘さんは言いました。彼女が最後の最後に家へ帰った時、もうその時は立つこともできない状態です。病院の皆が引き留めたんだけど、どうしても行きたいと。そこで僕は、「じゃあ家に布団を敷いて、家の空気だけ吸ったら戻っていらっしやい」と言って送り出しました。ところがその日、彼女は家で台所に立ちました。立てるはずのない者が最後の力を振り絞ってお弁当を作るんですよ。その時のことを娘さんはこのように話してくれました。

「お母さんが最後に作ってくれたお弁当はおむすびでした。そのおむすびを持って、学校に行きました。久しぶりのお弁当が嬉しくて、嬉しくて。昼の時間になって、お弁当を広げて食べようと思ったら、切なくて、切なくて、なかなか手を取ることができませんでした」

お母さんの人生は40年ちょっと、とても短い命でした。でも、命は長さじゃないんですね。お母さんはお母さんなりに精いっぱい、必死に生きて、大切なことを子供たちにちゃんとバトンタッチした。人間は「誰かのために」と思った時に、希望が生まれてくるし、その希望を持つことによって免疫力が高まり、生きる力が湧いてくるのではないかと思います。

「誰かのために」「何かのために」と思った時、何だか分からないけれど頑張れる・・・私(教頭)もそんな経験をしたことがあります。「個人の権利」のついていろいろな意見があるなか、他者のことを思いやれる浅中生に育てて欲しいなあ・・・と感じる今日、この頃です。

1学期が始まって3ヶ月が経ちます。日々の慌ただしさの中、大切なものが見えづらくなったりします(・・・ですよね?)。そんな時、上に載せた鎌田さんの文章を思い出して頂けると幸いです。私も忘れないようにしたいと思います。

【連絡】

- ・今年度2回目の参観日及び学年・学級PTAが6月25日(木)に行われます。お忙しい中ではありますが、多くの保護者の方のご来校をお待ちしております
- ・次のスクールカウンセラーの相談日は7月13日(月)午前です。生徒の皆さん、保護者の皆様どなたでも懇談利用できます。懇談希望は、担任の先生または教頭までご連絡ください。